

すると父がいきなり私から麻紀をひったくり、真っ青になってガタガタ震えながらこう叫んだんです。

「わしが麻紀を連れて死んだる！ こういう子を育てたら、お前が苦労して不幸になる」

私は「そんなこと言わんといて。私ら、元気に楽しく生きていってみせるから」と父をなだめました。とはいえ、この先どうしていけばいいのか全く分かりません。麻紀を病院に連れていっても「お母さんのせいじゃないから」と慰められるだけ。育児書を読んでも「あなたの子供が脳に障害を持って生まれたら、こう育ててあげなさい」なんて一行も書いてありません。

麻紀の目は光を感じる程度で、音には反応するものの、どんな音かは分かっているようでした。そこで私は麻紀をおんぶして、いろんな団体や勉強会に飛び込み、目の見えない人や、耳の聞こえない人たちに、どうい



08年に発足した「神戸スウィーツ・コンソーシアム」。モロゾフ株式会社テクニカル・ディレクターの八木淳司氏（写真中央）はじめ、一流パティシエからチャレンジたちがプロのレシピと技を学ぶ。



娘の麻紀さんと。「麻紀」って呼びかけると、笑顔が出るようになってきたんですよ。周りの方から「お母さんが想像しているより、分かっているんじゃないですか」と言われて、その気になりつつあるところです！

う工夫をしたら楽しく過ごせるのか聞いて歩きました。

娘の障害を聞きつけて、いろんな宗教の方が訪ねてきたこともあります。でもたいてい、「障害は、過去に何か呪いがあったから」と言われるんです。

幸福の科学さんも宗教団体から申し上げるのですが、宗教団体の方には、「過去がどうのこうの」というネガティブな言い方ではなく、「私たちは子供さんが社会で活躍できるように応援します」と、チャレンジを抱えるお母さんを励ましてほしいんです。それによって救われる方は、きっと多いと思います。

娘がくれる無限のパワー

「プロップ・ステーション」を設立して今年で20年。パソコンセミナー参加者は4千人以上、プログラマーなどとして活躍する人は500人を超えました。

日清製粉の方が声をかけてくださったのをきっかけに、08年

からはお菓子作りのプロを養成する「神戸スウィーツ・コンソーシアム」も始めました。著名なパティシエの方々が、続々と講師に名乗りを挙げてくださり、うれしい限りです。

私は人に恵まれて、ここまでやってこることができました。でも、私を一番成長させてくれたのは麻紀だと思っくんです。

私はもともと図々しい人間なんです。麻紀といると怖いものはなくなるんですね。だって38歳になった娘が今でも、「おかんをおかんと分らない」っていうのは、やっぱりすごい出来事じゃないですか。でも、そんな状況にあっても、楽しく元気に生きられることを知ってしまったと、もう何も怖くなくなる。ですから、私の辞書には「物怖じ」という言葉はありません。どこにでも飛び込んでいきます。彼女が母を動かす「チャレンジ・パワー」たるや、すごいものがありますよ。